



男と女のいきいきコラム



男女共同参画社会の実現を目指して

VOL.78

皆さん、明けましておめでとうございませう。ご家族や友人、知人の方々と新しい年をお迎えのことと思います。今号も昨年引き続き、市に寄せられた「土岐市の男女共同参画について」をお届けします。

今回は、泉幼稚園の中野克義園長です。元気で明るい子どもたちの様子と、子どもを取り巻く私たち大人についてのお話です。

園児の幸せのために私たちは

中野 克義さん

38年間勤めた小中学校の教員を昨年退職し、本年度から幼稚園に勤務しています。対象の子どもが中学生から幼稚園児に変わり、最初はそのギャップに戸惑いましたが、今では純真な子どもたちに囲まれて楽しく勤務しています。

幼稚園に来て大きく変わったことが二つあります。一つ目は、職員ほとんどが女性ということです。本園でも12人の職員のうち、男性は私だけです。市内の幼稚園の職員全体でも、男性は3人（園長は除く）です。昔は保育園の免許を持った先生を「保育さん」と呼んでいたようですが、今は「保育士さん」に変わりました。幼児教育は女性中心がふさ

わしいかもしれません。男性の良さを生かすためにも、男性の保育士がもう少し増えても良いのでは、と感じています。二つ目は、幼稚園にはさまざまな行事がありますが、入園式でも運動会でも、毎回教室や会場に入れないくらいたくさんのお保護者が出席し、関心の高さが示されていることです。少子化の中、保護者の愛情を一身に受けた大切な子どもたちなのだと感じています。運動会の親子競技の場面では、お父さんやお母さんにおんぶしてもらっている園児の顔が、今でも脳裏に焼き付いています。何ともいえない満面の笑み、幸せいっぱい笑顔は、親子関係の大切さ、「園児にとって家庭が一番 家族が一番」を印象付けた一瞬でした。また、先日実施した祖父母参観も、会場の遊戯室が狭く感じるほどの盛況ぶりでした。おじいちゃん・おばあちゃんの似顔絵を描いたり、科学遊びをして楽しませました。普段は見られないほほえましい、幸せそうな瞬間にあふれています。こんな園児たちの純真な姿を毎日目にしながら、「園は、家庭は、親は、大人は、どうあらねばならないか」を、真剣に考えさせられる日々を送っています。

しょうぼう119



住宅火災から大切な生命を守るために、住宅用火災警報器を設置してください

消防本部・☎0123

救急車の適正利用について

現在、市消防本部では4隊の救急隊を配備し、24時間皆さんの救急要請に迅速に対応できるように努めています。

このところ、1年間の救急件数は2,000件以上あり、その数は年々増加しています。

以下のような不適切な救急車の利用により、本当に救急車を必要とする人への対応が遅れてしまい、1分1秒を争うけがや病気の方への対応が遅れ、状態を悪化させてしまう可能性があります。

こんな理由で救急車を呼んでいませんか？

- 救急車で病院へ行った方が優先的に診てもらえる。
- タクシーだとお金が掛かる。
- 夜間や休日はどここの病院へ行けばいいのか分からない。



救急車は、緊急性の高いけがや病気をした方を一刻も早く病院へ搬送する車です。救急車を利用する前に、「本当に救急車が必要なのか？」をもう一度考えてみてください。

救急車を呼ぶほどでもないが、かかりつけの病院がない、診察してくれる病院が分からないなどの時は『救急医療情報センター（☎03799・24時間対応）』へ問い合わせください。